

## 新卒学生の新たな働き方の選択肢

### 「新卒派遣」とは

#### 新卒学生の「派遣労働」に関する意識と派遣会社へのインタビュー結果より

インターネットによる国内最大級の正社員、派遣、アルバイトの求人・転職情報サイトを運営するディップ株式会社では、自社の登録会員、またはそれ以外の働く人々に向けてインターネットアンケートを行い、多様化するワークスタイルに対する、職種別の意識の違いを、隔月で「Dip Report」として発信しています。今回は、「新卒派遣」という働き方について今年の新卒学生の意見を聞いてみました。

#### 根強く残る「正社員志向」、学生にとって『新卒派遣』とは

“派遣”という働き方を“不安定”と感じる学生は約6割。

「新卒紹介予定派遣」に対しても「正社員登用への不安」を感じる学生は約5割。

一方で、「新卒紹介予定派遣」を利用して正社員になる学生は8割以上という派遣会社の声も。

(新卒学生780人に聞くアンケート結果と大手人材派遣会社インタビューより)

学生の就職活動は年々時期が早まる傾向にあり、街ではリクルートスーツに身を包んだ学生たちを多く目にします。4月から5月にかけて、彼らの就職活動は既に佳境に入っています。

厚生労働省の調査によると、平成16年度の大学卒業者の就職内定率は、2月1日時点で82.6%と、前年を0.5ポイント上回り、2年ぶりに改善しました。この内定率の改善傾向は、企業の業績改善を背景に今後も続く予想されています。しかしその一方で、同省によると、2000年春に就職した新規大卒者は3年後までに36.5%が離職したという調査結果が出ており、新卒学生の早期離職率の上昇が問題となっています。

自己分析を繰り返し、数多くのセミナーや面接を経て、必死の就職活動の末に内定が決まったにもかかわらず、彼らが入社数年で離職する理由の多くは、仕事内容や職場環境が合わないというというミスマッチによるものと思われます。このような中、派遣会社が正社員として採用されることを前提に新卒学生を企業に派遣する「新卒紹介予定派遣」が、学生にとっての新たな就職スタイルとして注目されるようになって来ました。

今回の調査では、就職活動を経験してきた新卒学生の“新卒派遣”に対する認知度やイメージ、また、大手派遣会社の方からのお話を通して、「新卒派遣」の現状と今後の可能性について探ってみました。

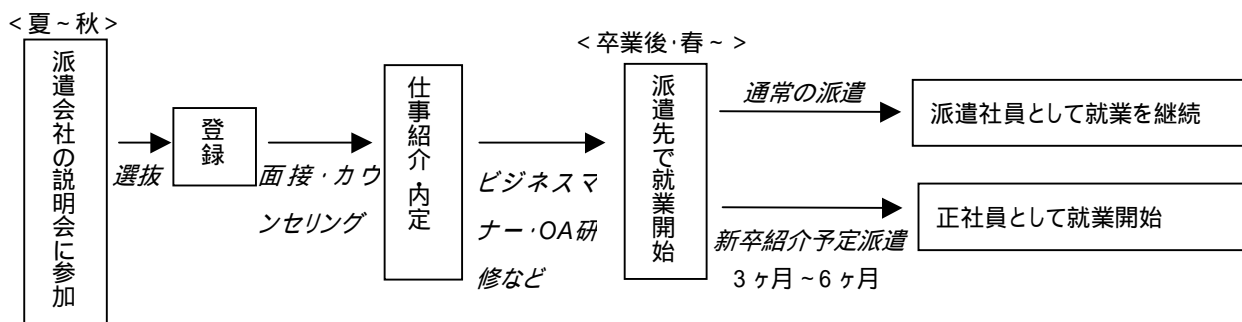
#### < 新卒派遣とは >

「新卒派遣」は、新卒・第二新卒を対象とした派遣業務の形態で、一定期間の派遣業務を行い業務を終了する場合と、派遣期間終了後、派遣社員と企業双方が合意すれば正社員として雇用されることを前提として派遣される「新卒紹介予定派遣」の2種類があります。現在では、新卒派遣といえば、後者の「新卒紹介予定派遣」である場合

が多く、今回インタビューにご協力いただいた大手派遣会社でも、8割以上の案件が「新卒紹介予定派遣」であるそうです。

### < 新卒派遣の流れ >

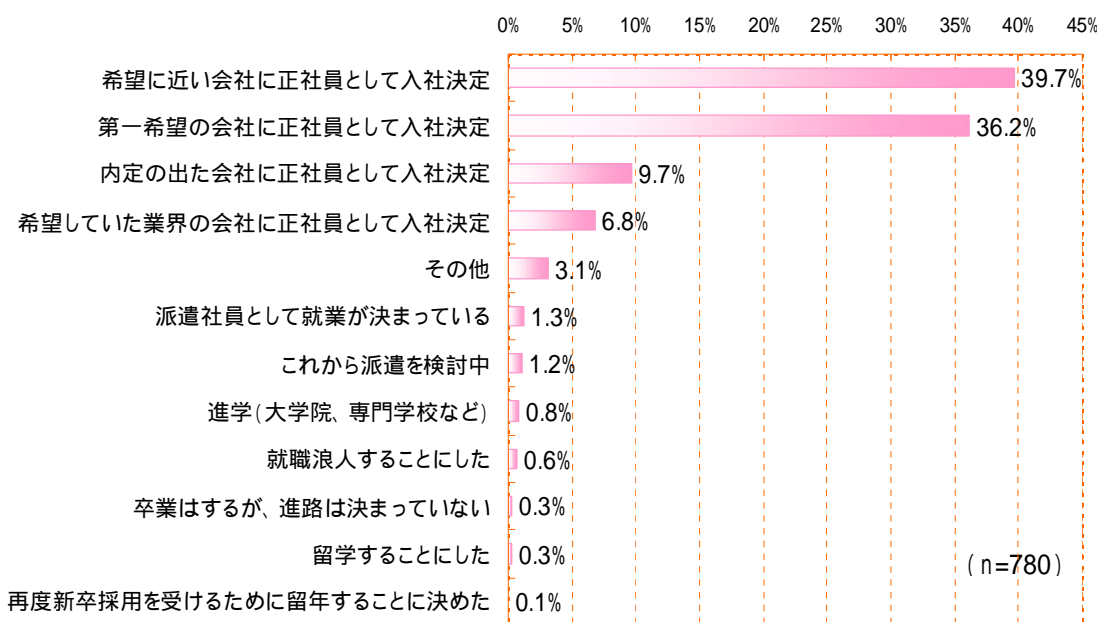
新卒派遣の募集を行っている派遣会社の説明会に学生が参加し、学生の能力や適性をみる選抜が行われ、登録に至った学生は、翌年の春以降の仕事紹介を受け、即戦力となるよう在学期間中に派遣会社からビジネスマナー・OA研修など



### < 新卒学生へのアンケート >

4月以降のあなたの進路について教えてください。  
 “派遣”という働き方をどう思いますか？  
 「新卒派遣」という制度を知っていますか？  
 新卒派遣制度の利用状況  
 新卒派遣を利用した理由、利用を検討した理由は？  
 新卒派遣制度の「詳細」を読んで、どう思いましたか？

- グラフ1 (設問 ) 4月以降のあなたの進路について教えてください。(ひとつ選択) -



グラフ1 設問 新卒学生の4月以降の進路について (グラフ1参照)

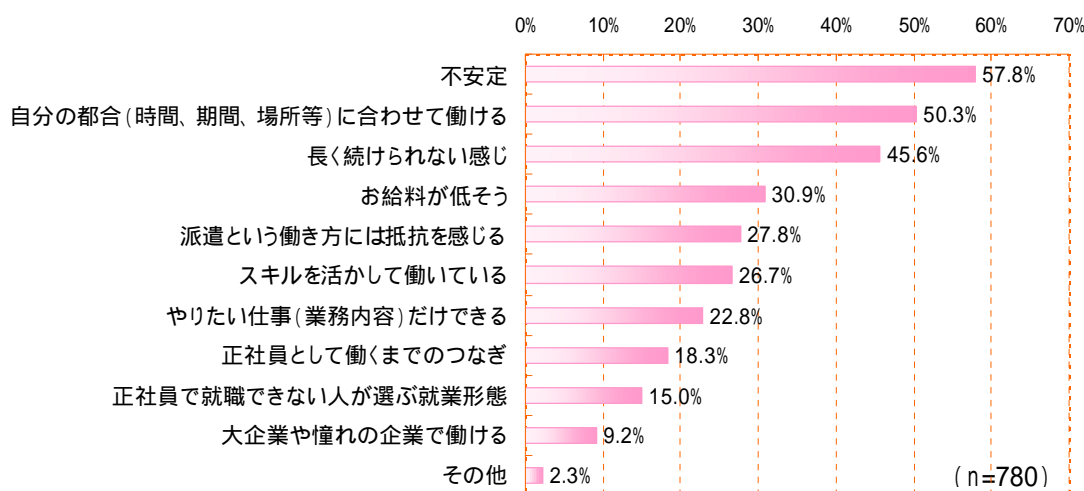
「第一希望ではないが、希望に近い会社に正社員として入社」39.7%、「第一希望の会社に正社員として

入社」36.2%と、ともに3割を超えて高い結果でした。

希望していたかどうかを問わなければ、全体の9割以上が、“正社員”として就業することがわかります。このように、高い就職内定率をみると、新卒学生の雇用状況は改善しているように見えます。しかし、「就職しないといけないので内定の出た会社に入社する」という理由で進路を決めた学生が約1割いることも事実です。

一方で、「派遣社員として就業する人」1.3%、「これから派遣を検討中の人」1.2%と、わずかではありますが、卒業後、まず「派遣社員」として就業しようとしている人たちもいます。彼らが「派遣」という働き方を選択した理由は何だったのでしょうか。「就職内定率」には、ほとんどの場合、卒業後、派遣社員として就業する人は含まれません。新卒学生にとって“派遣”という働き方はどのように捉えられ、また、就職活動中に派遣で働くという選択肢を検討した学生はどれくらいいるのでしょうか。

### - グラフ2 (設問) “派遣”という働き方をどう思いますか？ (複数選択)



### 設問 「派遣」という働き方のイメージについて (グラフ2参照)

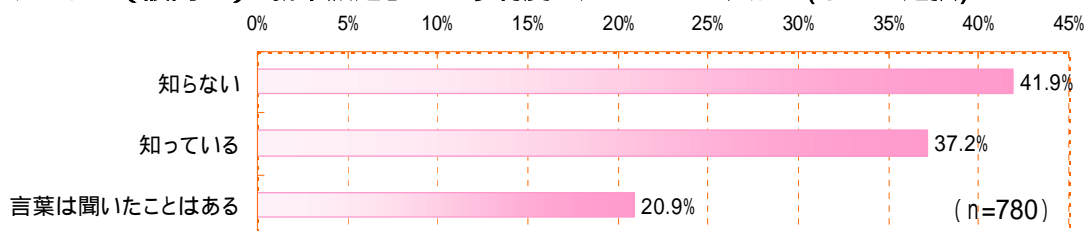
「不安定」が57.8%と最も高く、「自分の都合(時間、期間、場所等)に合わせて働ける」50.3%と続きました。

「自分の都合に合わせて働ける」、「スキルを活かして働いている」といったプラスイメージがある一方で、学生にとって、「派遣」という働き方は「不安定」なイメージが最も強く、「長く続けられない」、「抵抗を感じる」等、マイナスイメージも多いようです。

それでは、“新卒派遣”について詳細を知っている学生はどれくらいいるのでしょうか。

以下の質問からは、新卒派遣という言葉の認知度、制度の詳細を読んだ後のイメージから、学生の“働く”意識を探ってみました。

### - グラフ3 (設問) 「新卒派遣」という制度を知っていますか？ (ひとつ選択)



### 設問 「新卒派遣」という制度の認知度について (グラフ3参照)

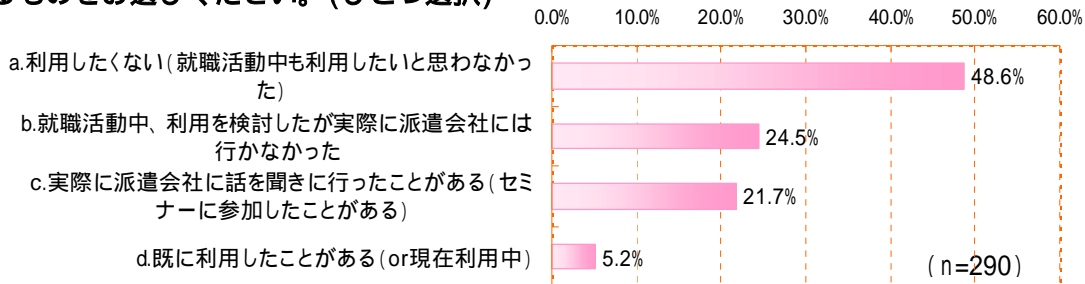
「知らない」が41.9%で最も高く、「知っている」37.2%を4.7ポイント上回る結果。

「言葉は聞いたことはある」を含めれば、全体の6割近くが“新卒派遣”について何らかの情報を得てい

るようです。

次に、「知っている」と答えた人の“新卒派遣”の利用状況について聞いてみました。

- グラフ4(設問 ) Q3で「知っている」と答えた方に伺います。新卒派遣の利用について、当てはまるものをお選びください。(ひとつ選択)

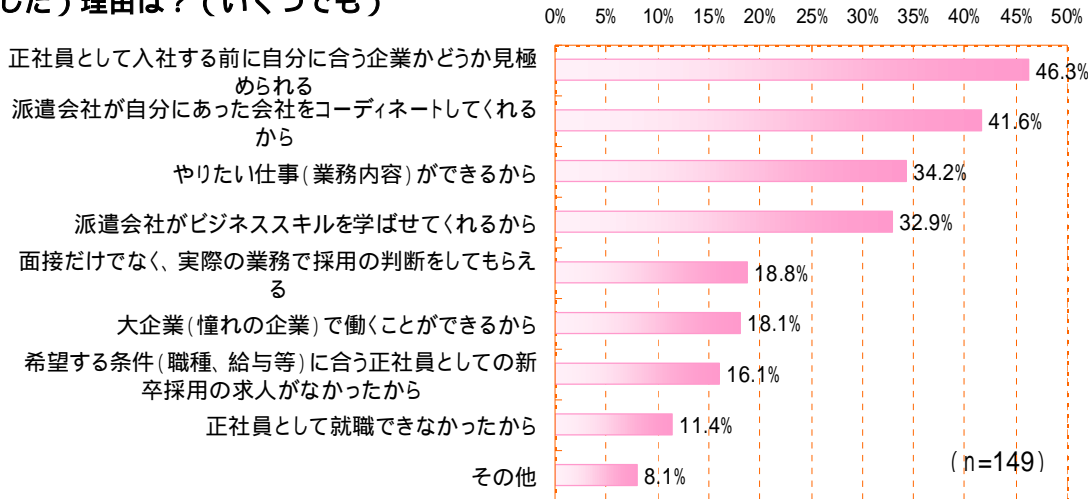


設問 新卒派遣を「知っている」と回答した人の“新卒派遣”の利用状況について(グラフ4参照)

「a.利用したくない(就職活動中も利用したいと思わなかった)」が48.6%で最も高く、「d.既に利用したことがある(or現在利用中)」は5.2%という結果。

「新卒派遣」を知っているものの、「就職活動中も利用したいと思わなかった」人が過半数近く、景気の低迷が続く中、「不安定」なイメージが強い「派遣」という働き方を選択する人は少なく、正社員志向が根強いようです。それでは、実際に利用した人、利用を検討した人は、どのような理由で、卒業後の働き方の一つとして“新卒派遣”を視野に入れていたのでしょうか。

- グラフ5(設問 ) Q4でb、c、dのいずれかを選んだ方に伺います。新卒派遣で働く(働くことを検討した)理由は?(いくつでも)



設問 新卒派遣を利用した理由、利用を検討した理由について(グラフ5参照)

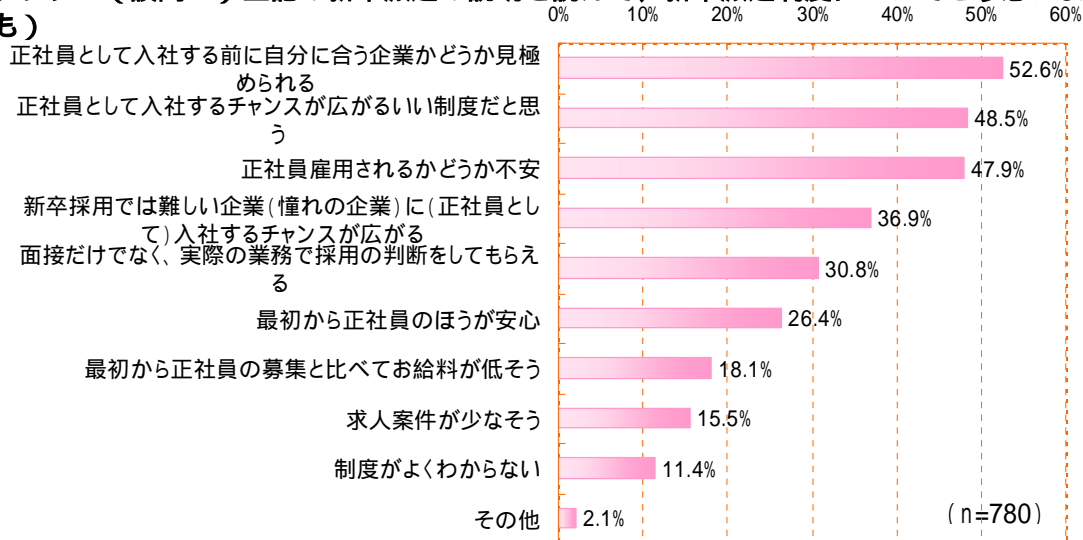
「正社員として入社する前に自分に合う企業かどうか見極められるから」が46.3%で最多。

「正社員として入社する前に自分に合う企業かどうか見極められるから」、「派遣会社が自分にあった会社をコーディネートしてくれるから」という回答がともに多いことから、利用を検討した学生が「新卒派遣」のメリットとしてみている点は、「より自分にマッチしている企業や仕事を探せる点」であることがわかります。また、「正社員として就職できなかったから」という正規雇用の選考に漏れた場合の受け皿的役割よりも、「やりたい仕事(業務内容)ができるから」、「派遣会社がビジネススキルを学ばせてくれるから」という理由が多いことから、自身の成長や、「働く」ことを通して得られる充足感、結果を重視しており、「働く」ことで「自己実現」したいという目的意識の高さが伺えます。

それでは、この新卒派遣制度のメリットを明確に示したあとでは、学生は「新卒派遣」についてどのように感じるのでしょうか。

新卒派遣とは、人材派遣会社が新卒や第二新卒を対象に、研修・教育により実際の業務に必要な知識やスキルを身につけさせてから派遣する制度。「紹介予定派遣」(派遣期間終了後、双方の合意があれば正社員として雇用される派遣制度)と併用のケースが多く、正社員になれる可能性がある。

- グラフ 6 (設問 ) 上記の新卒派遣の説明を読んで、新卒派遣制度についてどう思いますか？ (いくつかも)



設問 新卒派遣制度の「詳細」を読んでどう思ったかについて (グラフ 6 参照)

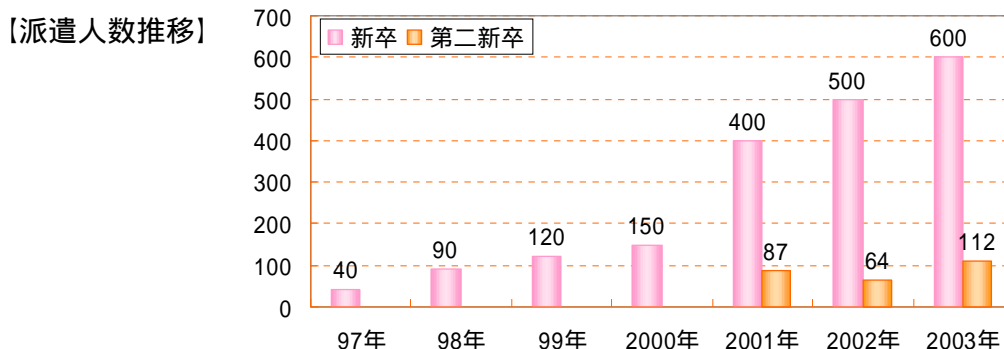
「正社員として入社する前に自分に合う企業かどうか見極められる」が 52.6%で最多、「正社員雇用されるかどうか不安」が 47.9%。

過半数以上の学生が、「正社員として入社する前に自分に合う企業かどうか見極められる」というメリットに着目し、また、「正社員として入社するチャンスが広がるいい制度」としてプラスイメージを持った人が多くいました。しかしその一方で、「正社員雇用されるかどうか不安」という意見も多く、「最初から正社員のほうが安心」、「最初から正社員の募集と比べてお給料が低そう」といった意見とあわせ、「新卒派遣」の実態がわからないという情報不足から、“不安”が多いこともわかります。

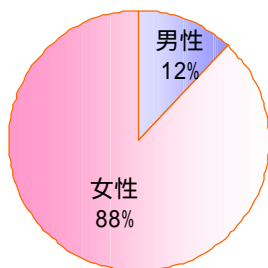
< 派遣会社インタビュー >

ここで、学生の不安要素として最も多かった「正社員雇用されるのかどうか」について、新卒派遣を行っている派遣会社にお話を伺いました。大手派遣会社 T 社によると、新卒派遣を利用した 600 人の新卒学生のうち、8 割の 480 人が「新卒紹介予定派遣」であり、3 ヶ月から 6 ヶ月の派遣期間終了後、そのうちの 8 割以上が社員として雇用されているという実績(2003 年度)があります。また同じく新卒派遣に力を入れている M 社では、過去に企業側から正社員雇用を断られたケースは一度もなく(年間の派遣人数約 40~50 名) 学生の抱いているイメージと現状とは異なっているようです。また、T 社の 2003 年度の新卒派遣稼働者数は、同社が新卒派遣を開始した 97 年の 15 倍にもなっており、特に、「紹介予定派遣制度」が解禁となった 2000 年 12 月以降に飛躍的な伸びを示しています。

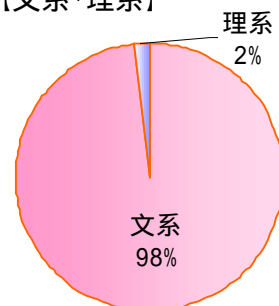
以下は、T 社の新卒派遣の伸び、登録学生の属性、職種、業態をあらわすものです。(2003 年度)



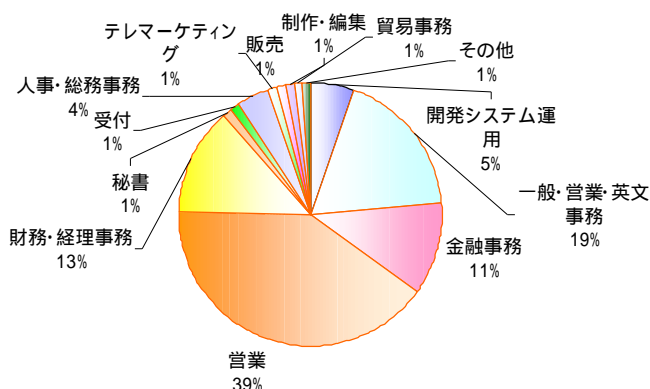
【登録者男女比】



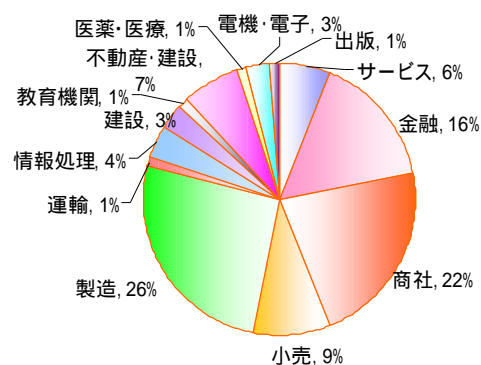
【文系・理系】



【職種】



【業種】



派遣会社の説明によると、「新卒派遣」は、「紹介予定派遣」と組み合わせることで、企業側には、定時採用にかかるコストを削減するとともに、雇用のミスマッチの防止になり、就業前の充実した教育・研修を受けた付加価値の高い人材の採用が実現できるというメリットがあるということです。新卒学生にとっては、就業前にビジネスの基本となる研修を派遣会社で受講することができ、カウンセリングを通して自分の適職が何かを発見し、派遣会社が間に入ることで、求人企業が人材に求めている素養や仕事内容といった情報をより詳細に得ることができるので、“雇用のミスマッチ”を防げる可能性が高いということです。

#### < “新卒派遣”の展望 >

雇用形態が多様化している現代において、求職者はさまざまな働き方の中から自分にあった働き方を選択することができます。しかし、ほとんどの新卒学生は、卒業後の進路の選択肢に「派遣」という雇用形態を検討しておらず、「正社員として会社に就職する」ことを目指して就職活動をしています。

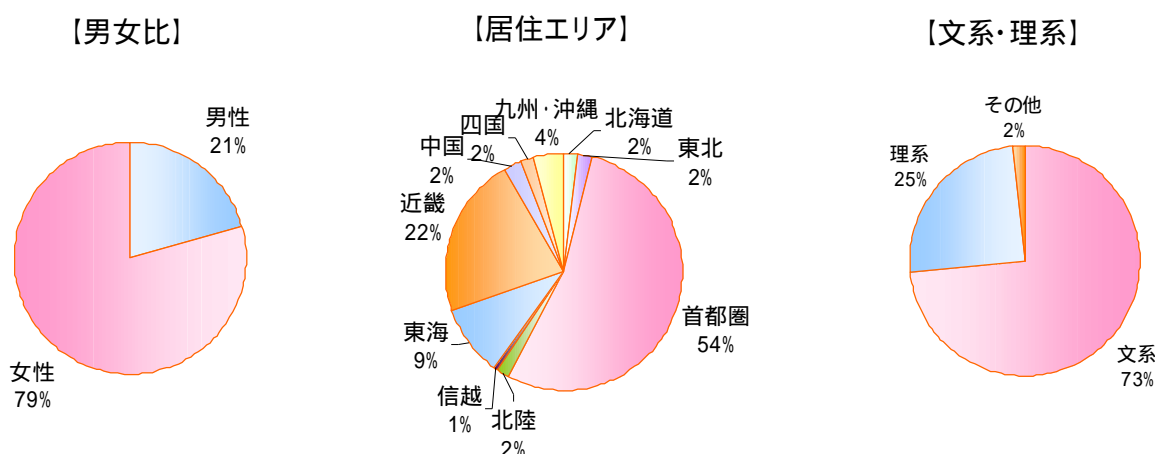
確かに、一度入社すれば、よほどのことがない限り、解雇される心配のない「正社員」は「派遣」という雇用形態より安定しているといえるでしょう。一方、正社員として入社した後のミスマッチで離職する人や、離職してしまった人が、本当に自己に合った仕事と出会う手段として、「新卒派遣」という制度は利用価値があるのではないのでしょうか。

以上のユーザー調査および派遣会社へのインタビュー内容から「新卒派遣市場」の今後の展望は、正社員志向の残る学生への「新卒派遣」に関する認知度のアップと、学生の派遣労働への抵抗感の要因ともいえる派遣に対するマイナスイメージを払拭することがカギになると考えられます。

当社では、今後も、求人企業や人材派遣会社との強いパイプを活かし、ユーザーに対し、多様な雇用形態について紹介していくことで、より多くの「夢をかなえる仕事と出会う」機会を提供して行きたいと考えております。

### < 今回のアンケート概要について >

1. アンケート方法: インターネットサイト(毎日フレッシュアズ)上でのユーザーアンケート
2. アンケート期間: 2005年3月31日~4月10日
3. 有効回答者数: 780人



Dip Report で得た情報、集計結果を第三者に公開する場合には下記の表示をお願いいたします。

**『総合求人情報サービスを行うディップ株式会社が発表した Dip Report による』**

Dip Report のデータをホームページでアップしております。詳しくは下記 URL でご確認ください。  
<http://www.dip-net.co.jp/news/trend.php>

**ディップ株式会社 会社概要** URL: <http://www.dip-net.co.jp/>

本社所在地: 〒106-6032 東京都港区六本木 1-6-1 泉ガーデンタワー 32F

設立: 1997年3月

代表者: 冨田 英揮(代表取締役社長)

資本金: 9億8,770万円

従業員数: 179名 (2005年2月末現在の正社員数 除 役員)

事業内容: インターネットによる求人・求職情報提供サービス

2004年5月東証マザーズ市場へ株式を上場

**この報道資料のお問い合わせ先 >**

ディップ株式会社 広報担当: 田淵みよこ

TEL 03-5114-1191 / e-mail: [info@dip-net.co.jp](mailto:info@dip-net.co.jp)